

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クラスルームという		
○保護者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53 (回答者数)	31
○従業者評価実施期間	令和7年2月28日		～ 令和7年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの年齢や発達段階などの状況に応じ、効果の高い支援を提供している。	療育分野で実績のある専門家にコンサルティングを依頼し、定期的な指導・助言を受け、職員の知識・専門性の向上に努めている。 また、利用児の支援には、エビデンスに基づいた支援方法(ESDM、TEACCH®アプローチ、PECS®)を取り入れ、専門的で効果の高い支援を提供している。	さらなる専門的な研修を積極的に受講し、質の高い手法を身に付けていく。
2	利用児への療育だけでなく、保護者向け勉強会や、市内事業者向けの療育実践研修も実施している。	保護者に対し、年2回、療育分野で実績のある専門家による勉強会を行い、保護者の知識向上に努めている。 また、市内の事業者に対しては、前期・後期それぞれ5日間の療育実践研修を行い、相互に学びを深めている。	保護者間の交流の場を設けるなど、保護者間の情報交換が活発になるような取組を検討する。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	提供している支援の質の高さや有用性について、根拠のある客観的な評価がない。	利用者満足度は高く、こどもの成長を感じるという保護者は多いが、こどもの成長には個人差があることから、客観的データの収集が難しい。	専門家による定点観測による療育効果の調査を検討する。
2			
3			